

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 3 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900417
法人名	株式会社 南海
事業所名	グループホームいこいの家
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄801-3 (電話) 0883-82-1513

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 18 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 19 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤:12人、非常勤:10人、常勤換算:てまり7.23人 赤とんぼ9.23人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500 円	その他の経費(月額)	光熱費:6,000円、電気代:1,500-3,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり ー 円			

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 19 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三加茂田中病院、私立三野病院、松浦医院、松浦歯科クリニック、武田歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの敷地内に広場を増設し、桜や梨、柿、みかん、無花果など多くの果樹を植えている。散歩途中で果実を収穫し、庭園に置かれた長いすで季節の味を味わうことができる。日々の生活の中では、正月のしめ縄送りやひな祭り等伝統行事を大切にしたい支援が行われている。職員は「利用者の生き生きとした表情が見られるその時が一番大切な時間である」ということを常に意識している。また、天気の良い日に農作業に誘うなど日々の支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「鍵をかけないケアの実践」、「栄養摂取や水分確保の支援」は改善されている。「重度化や終末期に向けた方針の共有」は改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットの職員全員で取り組み、作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催されている。構成メンバーは家族、地域包括支援センター職員、地域住民、老人クラブ会長、事業所職員である。会議内容は自己・外部評価の結果報告、改善に向けての取り組み、運営に関する課題、要望等の意見交換が行われている。会議で得た情報は地域との連携などサービスの質の向上に活かされている。また議事録を作成して職員に回覧し、確認印・サインも残されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見は、運営推進会議や家族会、面会の際や電話での報告時に伝えてもらっている。出された要望等は関係者間でできるだけ早い時期に話し合い、運営に反映させている。意見等は記録に残して家族に結果報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や祭りに参加したり、小学生・幼稚園児たちとの交流を図っている。散歩途中に出会った近隣の人たちと世間話をしたり事業所に立ち寄りてもらったり、また利用者と職員が近くの喫茶店に立ち寄りなど相互交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で見直しを行い、地域密着型サービスとしての役割を反映した内容となっている。また理念は、ホーム内に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々理念を確認し合い、利用者との関わりの中で実践に繋がるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや文化祭、小学校の七夕祭り等に積極的に参加している。利用者は職員と一緒にお手玉を縫い、保育所や幼稚園児にプレゼントするといった交流を楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットの職員全員で取り組み、作成されている。外部評価で見出された課題については計画を立て、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。構成メンバーは家族、地域包括支援センター職員、地域住民、老人クラブ会長、事業所職員である。会議内容は自己・外部評価の結果報告、改善に向けての取り組み、運営に関する課題、要望等の意見交換が行われている。会議で得た情報は地域との連携などサービスの質の向上に活かされている。また議事録を作成して職員に回覧し、確認印・サインも残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会があり、事業所の運営やサービス提供における課題について共に解決を図っていく取り組みが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、面会時や電話連絡でお知らせしている。毎月発行する「ひと月のご様子」の手紙に担当職員が日常生活状況を記入して、写真と共に送付している。金銭出納帳には家族等の確認印、サインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望等は、来訪時や運営推進会議、家族会で把握し、できるだけ早い時期に関係者間で話し合い、運営に反映させている。意見等は記録に残すとともに対応した結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、顔馴染みの関係が維持されている。やむを得ない離職などの場合には、引継ぎ期間を十分に取り、利用者への影響を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を段階に応じて育成できるよう計画をたて、研修への参加に取り組んでいる。受講者は、全職員が内容を共有できるよう報告書を回覧し、確認印・サインをもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上させていく取り組みをしている	地域の同業者を訪ねたり、研修会や連絡会などへの参加の折に意見交換や交流する機会を持っている。相互訪問の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が家庭訪問したり、利用者に日中のみ利用してもらったりするなど、家族と相談しながら本人が安心して雰囲気や環境に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に苗の植え付けや野菜等の収穫をしながら、風習や伝統、厳しかった戦争体験談や人生談などを聞き、共に学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、日常生活の会話や態度から把握している。把握が困難な場合は、家族や関係者と話し合い本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族等の要望は面会時や家族会、電話等で把握し、利用者の希望を重視して必要な関係者間で話し合い、職員の気付きや意見、アイデアを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しとともに、利用者の状態変化が生じた場合には本人や家族、必要な関係者と話し合い、実情に即して新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、医療・健康面での安心に繋がるよう支援している。また利用者の要望や家族の状況に応じた通院や外泊時の送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。通院や情報の伝達方法等は家族等と話し合いながら、適切な医療が受けられるよう関係者間で連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた方針の共有は、一部の利用者のみとなっている。	○	全ての利用者に対し、重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から話し合う機会をつくり、関係者間での方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を行っている。また個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底も図り、事業所の運営規程にも明示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日、その時の望みを知ることが大切にして、起床時間や休息のタイミングなど柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、後片付けなど利用者の力や出番を活かしながら職員と一緒に行き、共に食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望する日や時間に合わせ、また体調や気分に応じて清拭や足浴で対応するなど本人本位に支援している。入浴を拒む方には言葉かけのタイミングや職員を交代するなどの配慮をして気分の変化を待って、入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ペンキ塗りや畑仕事、草抜き、園芸、買い物の同行など利用者の力量に応じて得意分野で一人ひとりの力を発揮し、達成感を味わってもらえる場面が多く持てるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調、天候に配慮しながら買い物・散歩等に出かけている。また隣町の蘭の展示場や喫茶店、外食などにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関に鍵はかけていない。以前は利用者の安全確保のために2階階段にかけていた鍵も開錠し、職員の見守りによって自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施している。訓練は日中、夜間など様々な時間帯を想定して行い、地域の人たちの協力も得られるよう働きかけている。災害用備蓄も備わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は高齢者向けソフトを導入して作成し、栄養についての専門的なアドバイスは主治医や職員である保健師により行われている。また食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、関係者間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は生活しやすい配置となっていて、雛飾りや等身大のかかしが置かれたり、季節の花が所々に飾られたりするなど生活感や季節感を取り入れる工夫が見られる。山や川が見渡せる窓からは季節が感じ取れる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と撮った写真や好みのスターのポスター、手紙などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		